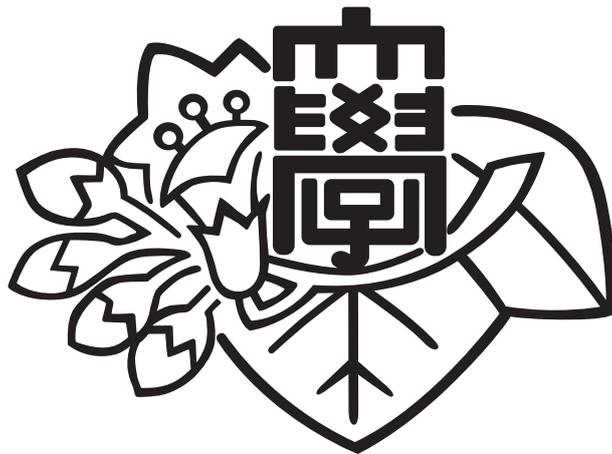


2019
平成31年度

推薦入試学生募集要項



平成30年9月
岩手大学

目 次

I 岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）	1
II 募集人員	17
III 推薦入試 I	18
IV 推薦入試 II	28
V 被災者特別選抜	30
VI 受験上の注意	34
VII 不正行為	34
VIII 入試過去問題活用宣言について	35
IX 障がい等を有する入学志願者との事前相談	35
X 出願手続	37
XI 検定料免除	38
XII 合格者の発表	39
XIII 入学手続等の概要	39
XIV 合格者の留意事項	40
XV 入試情報の提供	40
XVI 他の入試への出願	41
XVII 長期履修制度	41
XVIII 個人情報の取り扱い	41
XIX 出願書類等の記入要領及び志願票記入例	42
XX 建物配置及び試験場案内図	49

同封している出願書類

- ①推薦入試 I 志願票
- ②推薦入試 II 志願票
- ③出願理由書
- ④推薦入試 I 写真票・受験票・入学検定料納入確認票
- ⑤推薦入試 II 写真票・受験票・入学検定料納入確認票
- ⑥払込取扱票・振替払込請求書兼受領証・振替払込受付証明書（お客さま用）
- ⑦ラベル票
- ⑧受験票送付用封筒
- ⑨推薦書
- ⑩実技選択票（人文社会科学部 人間文化課程 美術選択志願者及び教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース 美術サブコース志願者用）
- ⑪運動歴調査書（人文社会科学部 人間文化課程 スポーツ選択志願者用）
- ⑫証明書（人文社会科学部 人間文化課程 美術選択・書道選択志願者及び教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース 美術サブコース志願者用）
- ⑬被災者認定書（理工学部 被災者特別選抜志願者用）
- ⑭出願書類等提出用封筒

I 岩手大学入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

1 岩手大学入学者受入の方針

岩手大学は、地域における知の府としての役割を果たす教育研究の場として、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えて持続可能な共生社会の形成に寄与する人材の育成に取り組んでいます。

そのために、高等学校等における幅広い学びから育成される基礎的な知識と思考力に加えて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

- 真理の探究や課題の解決に向けて主体的に取り組む姿勢
- 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップ
- 自然や人を思いやる心と倫理性
- 豊かな発想とチャレンジ精神、そしてコミュニケーション能力

2 学部別入学者受入の方針

人文社会科学部

1 学部概要

人文社会科学部は、グローバル化の下で著しく変化する現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目指しています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通部分》※各課程分は後述

(1) 知識・理解

人間・文化・社会・環境に関する基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

多様な考え方、異質なものの見方を理解しようとする柔軟な姿勢を持ち、物事を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

人間・文化・社会・環境のあり方とそれらをめぐる諸問題について強い探究心と広い観点から学ぶ意欲を持つ人

(4) 技能・表現

自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(5) 主体性・協働性

地域社会・国際社会の諸問題に実践的に取り組み、周囲の人々と協働しながら問題の解決を図ろうとする人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容《学部共通》

- ・国語－読解力及び自分の考えを表現できる作文力
- ・英語－基本的な読解力・リスニング力・会話力・作文力
- ・地歴・公民－日本及び世界の地理・歴史・社会制度・社会思想などに関する基礎的知識と社会事象に対する関心
- ・数学、理科－論理的思考力、及び自然科学の基本的知識
- ・高校生活全般－他人と積極的に関わることでできるコミュニケーション力

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では「知識・理解」「思考・判断」を評価し、個別試験では「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では「知識・理解」「思考・判断」を評価し、個別試験では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

(3) アドミッション・オフィス入試

第1次選考の書類審査・面接では、高等学校時代までの校内・校外の諸活動、その他の社会活動から見える「主体性・協働性」を、課題文の要約及び出願理由書・実績記入書の内容から「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」を評価します。第2次選考については、集団討論で「思考・判断」「技能・表現」「主体性・協働性」を、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書・実績記入書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

(4) 推薦入試

人間文化課程（小論文選択）と地域政策課程については、小論文で「思考・判断」「技能・表現」を、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

人間文化課程（スポーツ選択）については、小論文で「思考・判断」「技能・表現」を、面接では運動歴調査書の記載内容も含めて「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。人間文化課程（美術選択・書道選択）については、実技検査で当該分野の基本的な「技能・表現」を評価し、面接では「技能・表現」「関心・意欲」を評価するとともに、出願理由書・調査書で「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「主体性・協働性」を確認します。

(5) 私費外国人留学生入試

日本留学試験では日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・理解」「思考・判断」を、小論文では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。そして、面接では出願理由書の内容の確認も併せて「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」を評価します。

【人間文化課程】

1 課程概要 ※学部分は前述

人間文化課程は、多様な固有文化を育み、歴史的に継承されてきた地域のあり方と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の心身両面の健やかな生活に貢献できる人材、及び地域の来歴を踏まえ、文化を世界に向けて発信できる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《課程分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解

人間・言語・文化・芸術・スポーツについて学ぶための基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

多様な特性をもつ人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸現象を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

人間・言語・文化・芸術・スポーツをめぐる諸問題について世界及び地域双方の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 技能・表現

人間・言語・文化・芸術・スポーツについて学ぶための語学力と基礎的な技能を身につけているとともに、自分の考えを適切に表現し、それを積極的に発信できる人

(5) 主体性・協働性

人間・言語・文化・芸術・スポーツに関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働しながら地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

【地域政策課程】

1 課程概要 ※学部分は前述

地域政策課程は、東日本大震災の復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントへの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《課程分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解

社会・環境について学ぶための基礎的知識を有し、物事を論理的に考えることができる人

(2) 思考・判断

複雑に絡み合う社会・環境をめぐる諸現象を多角的に捉えることができる人

(3) 関心・意欲

社会・環境をめぐる諸問題について、法・経済・環境の広い観点から学ぶことに高い関心を持つ人

(4) 技能・表現

社会・環境に関する自分の考えをまとめ、積極的に発信しようとする人

(5) 主体性・協働性

法学・経済学・環境学に関する学修を実践に活かし、周囲の人々と協働して地域社会・国際社会の諸問題を解決しようとする強い熱意を持つ人

<別表> 検査方法と評価要素

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者 選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
小論文	一般（後期）	社会・文化・学問・教養などに関する事柄をテーマとして、「思考・判断」「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
小論文	推薦 （人間文化課程小論文選択・ スポーツ選択、地域政策課程）	提示した問題・課題を通して、「思考・判断」「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
小論文	私費外国人留学生	提示した問題・課題を通して、日本語に関する「技能・表現」、及び「思考・判断」に関する基礎的な能力を判定する。
集団 討論	アドミッション・ オフィス2次	人間文化課程では、人間と文化に関する資料（映像・文献等）に基づいて、自分の意見や感想をまとめた後、ディスカッションを行う。地域政策課程では、提示された社会科学・環境科学に関するテーマについてディスカッションを行い、その後にディスカッションに関するまとめのレポートを作成する。両課程とも、これらを通じて「思考・判断」「技能・表現」「主体性・協働性」について判定する。
書類 審査・ 面接	アドミッション・ オフィス1次	書類審査と、面接において課題文の要約の発表、出願理由書・実績記入書についての質疑、及び1分間の自己PRを行い、「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲」「主体性・協働性」について判定する。
面接	アドミッション・ オフィス2次	人間文化課程では、出願理由書及び実績記入書の内容に関する質疑を行う。地域政策課程はそのほかに集団討論に関するレポート発表も行う。両課程とも、これらを通じて「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
面接	推薦	推薦書・出願理由書・調査書・運動歴調査書（人間文化課程スポーツ選択のみ）に関する質疑を行うことによって「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
面接	私費外国人留学生	出願理由書に関する質疑を行うことによって、「技能・表現」「関心・意欲」について判定する。
実技 検査	推薦 （人間文化課程 美術選択・書道選択）	美術選択はデッサン、書道選択は臨書の実技検査を行うことによって、当該分野の「技能・表現」に関する基礎的な能力を判定する。
運動歴 調査書	推薦 （人間文化課程 スポーツ選択）	高等学校までの校内・校外での運動歴を記入する。これによってスポーツの「技能・表現」に関する基本的な能力を判定する。
出願 理由書	アドミッション・オフィス 推薦 私費外国人留学生	本学部を志望する理由を、これまでの勉学や様々な活動を通じて育まれた問題意識、本学部の教育内容、大学卒業後の希望進路などを踏まえて記入する。「思考・判断」「関心・意欲」を判定する際の1つの資料とする。
調査書	アドミッション・オフィス 推薦	高等学校での科目の履修状況に加えて、教科外活動の状況やボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得なども評価対象とする。「知識・理解」「主体性・協働性」を判定する際の1つの資料とする。

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当選抜区分	知識・理解	思考・判断	技能・表現	関心・意欲	主体性・協働性
(センター試験)	一般(前期)	○	○			
	一般(後期)					
個別学力検査 <教科>	一般(前期)	○	○	○		
	一般(後期)					
小論文	推薦 (人間文化課程 小論文選択・ スポーツ選択、 地域政策課程)		○	○		
	私費外国人留学生					
書類審査・面接	アドミッション・オフィス1次		○	○	○	○
	アドミッション・オフィス2次					
面接	推薦			○	○	
	私費外国人留学生					
集団討論	アドミッション・オフィス 2次		○	○		○
実技検査	推薦 (人間文化課程美術選択・ 書道選択)			○		
運動歴調査書	推薦 (人間文化課程 スポーツ選択)			○		
出願理由書	アドミッション・オフィス					
	推薦		○		○	
	私費外国人留学生					
調査書	アドミッション・オフィス	○				○
	推薦					
日本留学試験	私費外国人留学生	○	○			

※一般入試(前期日程), 一般入試(後期日程)においては調査書は総合判定時の参考とする。

教育学部（学校教育教員養成課程）

1 学部概要 ※各コース部分は後述

教育学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通》

(1) 知識・理解・技能

- ・ 幅広い教養教育と教員になるための専門教育に主体的に取り組む基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考・判断・表現

- ・ 知識を活用し論理的に思考・判断する資質・能力を有する人
- ・ 多面的な考え方や協調性を尊重するとともに、自分の考えを表現できるコミュニケーション能力を有する人

(3) 関心・意欲・態度

- ・ 学校教育に関わる種々の問題に関心を持ち、教員として社会に貢献する強い意欲を有する人
- ・ 豊かな人間性と子どもに対する深い愛情を有する人
- ・ 生涯学び続ける態度を有する人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《学部共通部分》 ※各コースの特徴は後述

教育学部では、できるだけ幅広い教科・科目について基礎的な内容を修得していることが望まれます。さらに得意な分野等については、より学習を深め、科目全般についての学習内容を理解し確かな知識・技能を修得していることが望まれます。また学力の基本となる読解力と文章構成力を身につけていることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針 《学部共通》

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。小学校教育コース・中学校教育コース（音楽・美術・保健体育以外）・理数教育コース・特別支援教育コースの個別試験ではこれらに加え「表現」を、中学校教育コース（音楽・美術・保健体育）の個別試験ではこれらに加え「表現」「技能」「関心・意欲・態度」を評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。小学校教育コース・特別支援教育コースの個別試験ではこれらに加え「表現」「関心・意欲・態度」を評価します。

(3) 推薦入試Ⅰ

小学校教育コース・中学校教育コース（英語）・理数教育コース・特別支援教育コースの小論文では「知識・理解」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を評価します。中学校教育コース（美術）の実技検査では「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を評価します。小学校教育コース・中学校教育コース（美術）・理数教育コース・特別支援教育コースの面接では「関心・意欲・態度」を中心に、中学校教育コース（英語）の面接では「関心・意欲・態度」「技能（英語の運用能力）」を中心にそれぞれ評価します。出願理由は「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を中心に、調査書は「知識・理解」を中心に、面接で判定を行う際の基礎資料として活用します。

(4) 私費外国人留学生入試

日本留学試験では日本語に関する基礎的能力を含めて「知識・理解」「技能」を評価します。面接では出願理由書の内容の確認も併せて「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を、中学校教育コース（音楽・美術）ではこれらに加え「技能」を評価します。

【小学校教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

小学校教育コースは、人間の成長過程で重要な位置を占める小学校段階の教育を担う教員の養成を目的としています。本コースでは、小学校教育に関わる教科指導と生活指導に関する専門的知識・技能および実践的指導力に加え、小学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

小学校教育コースにおいては、幅広い教科についての基礎学力が必要とされ、広い学びと深い学びを両立できる意欲と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【中学校教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

中学校教育コースは、特定の教科に関する専門性を備え、生徒の発達に応じて適切に指導できる中学校教員の養成を目的としています。本コースでは、教科に関する専門的な学力とともに、生活指導に関する専門的知識・技能および実践的指導力を有し、中学校教育への使命感と豊かな人間性を持った教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

中学校教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に専門とする教科についての深い関心と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【理数教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

理数教育コースは、子どもたちに理科・数学に関する確かな学力や学ぶことの大切さを伝えるとともに、子どもたちの科学的な思考力や創造性を育成する理数教育の担い手として、小学校における理科・算数の教科リーダーとなる教員、また中学校における高い専門性を備えた理科・数学の教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

理数教育コースにおいては、できるだけ幅広い教科についての基礎学力とともに特に自然科学・数学分野における旺盛な探究心と学力を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

【特別支援教育コース】

1 コース概要 ※学部分は前述

特別支援教育コースは、特別支援学校、特別支援学級、小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して、主体的取り組みを支援する観点から教育的ニーズを把握し、適確に指導・支援できる教員を養成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《コース分》 ※学部共通項を参照

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 《コース分》 ※学部分は前述

特別支援教育コースにおいては、特別支援教育の基礎として前述の「小学校教育コース」または「中学校教育コース」に準じた能力を有していることが望まれます。加えて、特別支援教育への熱意、多様な子ども一人ひとりに寄り添うことができる感性を有していることが望まれます。

※ 具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

<別表> 検査方法と評価要素のマトリックス表

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
小論文	一般（後期）	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
小論文	推薦Ⅰ	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
面接	一般（前期）・美術	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
面接	推薦Ⅰ	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。中学校教育コース（英語）ではこれらに加えて「技能（英語の運用能力）」を評価する。
面接	私費外国人留学生	学校教育に関連する基礎的な「知識・理解」を踏まえて、教職を目指す者としてふさわしい「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。中学校教育コース（音楽・美術）ではこれらに加えて「技能（実技能力）」を評価する。
実技検査	一般（前期） 音楽・美術・保健体育	教職を目指す者としてふさわしい「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
実技検査	推薦Ⅰ・美術	教職を目指す者としてふさわしい「技能」を中心に、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を有しているかを評価する。
運動歴調査書	一般（前期）・保健体育	競技成績等の運動歴を通じて保健体育科教師としてふさわしい技能（身体能力）を保有しているかを評価する。
出願理由書	推薦Ⅰ 私費外国人留学生	「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」を中心に、面接で判定を行う際の基礎資料として活用する。
調査書	推薦Ⅰ	「知識・理解」を中心に、面接で判定を行う際の基礎資料として活用する。

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当入試区分	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
(センター試験)	一般(前期)	○		○	
	一般(後期)	○		○	
但し、表現を除く					
個別学力検査 <教科>	一般(前期)	○		○	
小論文	一般(後期)	○		○	○
	推薦Ⅰ	○		○	○
面接	一般(前期)・美術	○		○	○
	推薦Ⅰ	○	○(1)	○	○
	私費外国人留学生		○(2)	○	○
実技検査	一般(前期)・音楽		○		
	美術		○		
	保健体育		○		
	推薦Ⅰ・美術		○		
運動歴調査書	一般(前期)・保健体育		○		
出願理由書	推薦Ⅰ				
	私費外国人留学生			○	○
調査書	推薦Ⅰ	○			
日本留学試験	私費外国人留学生	○	○		

(1) 中学校教育コース(英語)では「技能(英語の運用能力)」を評価する。

(2) 中学校教育コース(音楽・美術)では「技能(実技能力)」を評価する。

※一般入試(前期日程), 一般入試(後期日程)においては調査書は総合判定時の参考とする。

理工学部

1 学部概要 ※各学科・コース・プログラム分は後述

理工学部は、理工学分野又は工学分野の基礎学力と科学技術分野に関する課題を解決するために必要な専門的能力を有し、グローバルな視点に立ちながら地域社会づくりやイノベーション創出に貢献できる技術者と研究者、次世代の優秀な理系人材を育成する教育者の養成を行います。また、持続可能な社会の発展のために、理工学分野の基礎から応用までの広範な研究を推進します。

2 入学者に求める資質(求める学生像)《学部共通部分》※各学科・コース・プログラム分は後述

(1) 関心・意欲

- ・ 科学技術の発展に必要とされる理工学や工学分野に強い関心と学ぶ意欲があり、更には地域や社会における課題への理解力と地域貢献への意欲を持ちつつ明確な目標を持って行動できる人

(2) 知識・技能

- ・ 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、理工学および工学分野の学修に関連する科目に関する基礎的な知識をもち、その知識を展開する技能を持つ人

(3) 思考力・判断力

- ・ 理工学分野又は工学分野における課題を発見・探求し、解決したいという積極性を持ち、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人

(4) 表現力・コミュニケーション能力

- ・ 周囲とコミュニケーションが円滑にとれ、必要な相手に伝えたいことを表現できる人

(5) 主体性・創造性・協働性

- ・ 多様な経験をもとに協働して学び、主体的に創造性豊かな発想ができる人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース・プログラム毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース・プログラム毎に後述

【化学・生命理工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述、各コース分は後述

化学・生命理工学科では、化学及び生命に関連する科学技術分野の理工学的な諸課題を解決するための理学的な基礎学力と工学的な応用学力を統合した総合学力を有し、国際的視点に立ちながら地域社会づくりに貢献できる研究者や技術者、教育者の育成を行います。また、持続可能な社会の発展のために、化学及び生命理工学分野の基礎から応用までの広範な研究を推進します。

2 入学者に求める資質(求める学生像)《学科共通分》※学部分は前述、各コース分は後述

- ・ 化学及び生命理工学の学修に必要な基礎学力
- ・ 化学・生命分野における豊かな発想力と論理的な思考力
- ・ 化学・生命分野における課題を探究し、解決したいという積極性

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※各コース・プログラム単位の内容については、下記の URL を参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<化学コース>

<生命コース>

【物理・材料理工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述，各コース分は後述

物理・材料理工学科では，数理学，物理学，物質科学，材料工学の各分野を担える広範な専門基礎学力と，関連する諸課題を探究し解決できる能力を有し，地域社会と国際社会の持続発展に貢献できる人間性豊かな技術者，研究者，教育者の育成を行います。

2 入学者に求める資質(求める学生像)《学科共通分》 ※学部分は前述，各コース分は後述

- ・ 高校教育の中で，数学，物理，化学，英語などを十分に学習し，本学科の学修に必要な基礎学力
- ・ 数理学，物理学，物質科学，材料工学に強い関心を持ち，環境との調和に留意しつつ，これらの発展に大きな貢献をしたいという意欲
- ・ 強い勉学意欲と，新しい課題に挑戦する積極性

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※ 各コース・プログラム単位の内容については，下記の URL を参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<数理・物理コース>

<マテリアルコース>

【システム創成工学科】

1 学科概要 ※学部分は前述，各コース分は後述

システム創成工学科では，電気電子通信，知能・メディア情報，機械科学，社会基盤・環境の各科学技術分野に関する広範な基礎学力と工学分野における課題を探索し，解決するために必要な専門的能力を有し，地域社会と国際社会の持続的発展に貢献できる技術者や研究者の育成を行います。

2 入学者に求める資質(求める学生像)《学科共通分》 ※学部分は前述，各コース分は後述

- ・ システム創成工学を学ぶに相応しい数学，物理，化学，英語などの基礎学力
- ・ 電気電子通信，知能・メディア情報，機械科学，社会基盤・環境の各分野に強い関心を持ち，豊かな発想力と論理的な思考力を有し，自ら積極的に勉強しようとする意欲
- ・ システム創成工学分野における課題を積極的に解決しようとする探究心

3 入学前に修得しておくことを期待する内容 ※コース毎に後述

4 入学者選抜の基本方針 ※コース毎に後述

※ 各コース・プログラム単位の内容については，下記の URL を参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<電気電子通信コース>

<知能・メディア情報コース>

<機械科学コース>

<社会基盤・環境コース>

【特別プログラム（3プログラム）】

理工学部には、次の特別プログラムがあります。特別プログラム履修者は、所属する学科及びコースが求める能力・資質に加え、それぞれの特別プログラムが求める能力・資質を備えた入学者を求めています。

※ 各コース・プログラム単位の内容については、下記の URL を参照してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/policy.html>

<先端理工学特別プログラム>

〔全学科対象〕

<地域創生特別プログラム（ものづくり系）>

〔システム創成工学科の電気電子通信コース、知能・メディア情報コース及び機械科学コースが対象〕

<地域創生特別プログラム（防災・まちづくり系）>

〔システム創成工学科の社会基盤・環境コースが対象〕

（各コース共通）

<別表> 検査方法と評価要素のマトリックス表<各コース・各プログラムで共通>

（1）入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
個人面接	AOⅡ 編入学試験 私費外国人留学生入試・ 前期日程試験	複数の面接担当者による個人面接を行います。志望理由について面接を行い、提出書類に関する確認を行う場合もあります。理工系科学者・技術者として将来社会に貢献する意欲等を評価します。
個人面接 (口頭試問を含む)	推薦Ⅰ AOⅠ	複数の面接担当者による個人面接を行います。志望理由や当該専門分野に関する一般的知識について面接を行います。高校の基礎学力を確認するために、口頭試問を行います。
プレゼン テーション	AOⅠ AOⅡ	各プログラムにおいて出された課題に対する関心・意欲、知識・技能、思考力・判断力、表現力・コミュニケーション能力、主体性・創造性・協働性を総合的に評価します。
出願理由書・ 志望理由書	推薦Ⅰ AOⅠ	志望するコースやプログラムへの出願・志望理由について1000または800字程度を自筆で作成してください。志望理由が、各コース・各プログラムの入学者受入の方針に合致しているかを総合的に評価します。
推薦書・ 自己推薦書	推薦Ⅰ AOⅠ AOⅡ	推薦書については、文字数は任意です。自己推薦書については、志望するプログラムにより400または2000字程度を自筆で作成してください。各プログラムで学修する適性と意欲について総合的に評価します。
調査書	推薦Ⅰ AOⅠ AOⅡ	高等学校での学力および生活状況（特別活動・指導上の参考となる諸事項等）について総合的に評価します。各プログラムにおいては、資格・検定試験の成績等のほか、プロジェクト活動やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験がある場合には参考資料とすることもありますので詳細に記載してください。

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目 [入学者選抜方法と求める学生像の関係性]

入学者選抜方法	該当入試区分	関心・意欲	知識・技能	思考力・ 判断力	表現力・ コミュニケーション能力	主体性・ 創造性・ 協働性
(センター試験)	一般 (前期)					
	一般 (後期)		○	○		
	AOⅡ					
個別学力検査 <教科>	一般 (前期)					
	一般 (後期)		○	○		
	編入学試験					
個人面接	AOⅡ					
	編入学試験					
	私費外国人 留学生入試	○			○	
個人面接 (口頭試問を含む)	推薦Ⅰ	○	○	○	○	○
	AOⅠ	○	○	○	○	
プレゼン テーション	AOⅠ	○		○	○	○
	AOⅡ	○	○	○	○	○
出願/志望理由書・ (自己)推薦書	推薦Ⅰ				○	
	AOⅡ	○				
	AOⅠ	○				○
調査書	推薦Ⅰ					
	AOⅠ	○	○			○
	AOⅡ					

※一般入試 (前期日程), 一般入試 (後期日程) において, 調査書は総合判定時の参考とする。

農学部

1 学部概要 ※各学科分は後述

農学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性を基礎として、農学の重要分野である植物生命、応用生物化学、森林科学、食料生産環境、動物科学、獣医学の専門分野における、基礎的・応用的な専門知識と技能を修得することにより、地域および国際社会の食料・生命・環境の諸問題の解決に貢献できる人材の養成を目的としています。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学部共通部分》 ※各学科分は後述

(1) 知識・理解

- ・ 農学分野の自然科学、生命科学、社会科学等を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

(2) 思考・判断

- ・ 農学分野に関するグローバルな問題を地域の視点から論理的にとらえる思考力を有する人

(3) 関心・意欲・態度

- ・ 生命の尊さを知り、食料生産技術や生物資源の開発と利用について専門的知識を修得する意欲のある人

(4) 技能・表現

- ・ 農学分野に関する論理的思考力を有し、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人

3 入学前に修得しておくことを期待する内容《学部共通》

- ・ 理科、数学—内容の理解と応用力
- ・ 英語、国語—基礎的な読解力、表現力、文章力
- ・ 地歴・公民—基礎的内容の理解

※具体的な履修要件や入試科目は、入試区分や学部等毎で個別に示しますので、各募集要項で確認してください。

4 入学者選抜の基本方針《学部共通》

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。個別学力検査ではこれらに加え「技能・表現」を評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。個別学力検査では「思考・判断」「技能・表現」を評価します。

(3) 推薦入試Ⅰ

小論文試験で「思考・判断」「技能・表現」を評価します。面接および出願理由書では「関心・意欲・態度」を、調査書では「知識・理解」を中心に総合的に評価します。

(4) 推薦入試Ⅱ

大学入試センター試験で「知識・理解」「思考・判断」を評価します。面接および出願理由書では「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能・表現」を評価し、調査書では「知識・理解」を中心に総合的に評価します。

(5) 私費外国人留学生入試

日本留学試験で、日本語力を含めて「知識・理解」「思考・判断」を評価します。面接および出願理由書では「関心・意欲・態度」を評価します。

【植物生命科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

植物生命科学科では、植物および昆虫の生命現象と農学に関連する生命の機能を解明するための基礎知識を生物学や化学的な観点で学習します。さらに、農産物や農業生物を有益な資源として生かすために生命科学技術ならびに論理を学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 生命機能の解明や生命資源利用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

- ・ 生命科学や生命資源の可能性を数量的・論理的に推理・解析できる分析力を有する人
- (2) 関心・意欲・態度・技能・表現**
- ・ 食料の安定供給と環境負荷低減を両立させる戦略・論理・技術を学ぶ意欲のある人
 - ・ 新たな生命現象や未利用資源に関する成果を社会へ還元する行動力のある人

【応用生物化学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

応用生物化学科では、生命の現象、食品素材の特性、生物圏での物質の動きを理解するための基礎知識を化学的な視点から学習するとともに、それらに関連する実験技術を修得します。これらをもとに、微生物・動物・植物資源の有効利用や生物機能の応用についても学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 生命現象の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 食品素材特性の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 生物圏での物質の動きの解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 微生物や酵素の高度利用について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 健康と食品機能について専門的知識を修得する意欲のある人
- ・ 食料生産と生物圏の化学的な解明について専門的知識を修得する意欲のある人

【森林科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

森林科学科では、東北地域の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用、自然生態系の保全・管理、防災を含めた幅広い分野について総合的に学びます。これらをもとに、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 森林科学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 多様な機能を活かした森づくりと利用・保全に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 森林の多面的機能を最大限に発揮できる森づくりに必要な知識と技術について学ぶ意欲のある人
- ・ 森林里山地域の自然生態系に配慮した適切な資源の利用と管理について学ぶ意欲のある人
- ・ 再生可能資源である木質バイオマスの総合的かつ持続的利用法について学ぶ意欲のある人

【食料生産環境学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

食料生産環境学科では、農業の生産基盤の整備や生活環境の向上、農村の生態系、文化・景観の保全や災害に強い地域づくり、食を取り巻く環境の急速なグローバル化および農業就業人口の減少や高齢化に対応する食料生産技術の高度化、農産物の保存・流通、6次産業化、農業経営の高度化、さらに持続可能な水産資源の管理や漁獲・増養殖、加工技術の改良と開発、グローバルな視野に立った新たな流通体系などの科学と技術を学びます。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

<農村地域デザイン学コース・食産業システム学コース>

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 農業生産基盤の整備と農村環境の保全、地域振興に関して学ぶに相応しい基礎学力を有する人

- ・ 食料生産技術，農産物の保存・流通，6次産業化，および農業経営に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 農村地域の持続的発展のために，地域資源の適切な利用・管理と農村環境の保全，および地域振興について多面的に学ぶ意欲のある人
- ・ 食料生産環境の科学的な解明や，農作業の快適化と効率化，農産物の保全と流通システムの構築，農業廃棄物の有効利用に関する理論と技術を学ぶ意欲のある人
- ・ グローバル化に対応した農業経営の高度化，グリーンツーリズムや観光を含めた農業の6次産業化や農業情報の利活用について学ぶ意欲のある人

<水産システム学コース>

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 水産資源の管理・生産，その利活用，流通・販売に関する自然科学・社会科学の広い学問領域を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の問題解決に必要な基礎的な思考・判断力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 三陸地域の社会と水産業に関心を持ち，東日本大震災からの復興と水産業の課題に取り組む意欲のある人
- ・ 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち，問題解決に取り組む意欲のある人
- ・ 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち，真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を備えた人

【動物科学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

動物科学科では，産業動物，実験動物，野生動物，展示動物などの様々な動物種および飼料作物などを対象に，広く生命科学の基礎知識を学習するとともに，関連した実験技術を修得します。これらをもとに，人と動物が共生する地域社会の創造や動物関連産業の発展，生命科学の発展に貢献できる国際的視野を持った人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 生命現象の解明と応用を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物生産および動物科学に関する知識と技術の修得に相応しい基礎学力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 動物科学への強い関心を有し，課題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ 動物に関連した産業の諸問題の探求と解決に取り組む意欲のある人
- ・ グローバルな視点から，動物に関連した産業の持続的発展に積極的な意欲を有する人

【共同獣医学科】

1 学科概要 ※学部分は前述

共同獣医学科は，獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき，高度獣医療の提供，人類の健康と食の安全，生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成します。

2 入学者に求める資質（求める学生像）《学科分》 ※学部分は前述

(1) 知識・理解・思考・判断

- ・ 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物の生命現象と病態に関する課題を探求し，グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人

(2) 関心・意欲・態度・技能・表現

- ・ 動物の生命現象と病態に関心を持ち，それを継続して探求しようとする意欲のある人
- ・ 自己を啓発し実行力に優れ，獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人
- ・ 獣医師として，国際的な交流・協力を推進し，世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人

<別表> 検査方法と評価要素

(1) 入学者選抜方法ごとの選抜内容

入学者選抜方法	該当入試区分	選抜内容
小論文	推薦Ⅰ 一般（後期）	文章を客観的に読解把握する力や、内容に対する自らの考え方を述べる力を検査します。
個人面接	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ 私費外国人	複数の面接担当者による個人面接を行います。加えて推薦Ⅱでは、当日提示される課題に対して自らの考えを説明する面接を行います。
出願理由書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ 私費外国人	入学を希望する理由を本人が記入します。
調査書*	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	学習の記録を中心に総合的に評価します。

(2) 入学者選抜方法ごとの重点評価項目

入学者選抜方法	該当入試区分	知識・理解	思考・判断	関心・ 意欲・ 態度	技能・表現
(センター試験)	一般（前期）				
	一般（後期）	○	○		
	推薦Ⅱ				
個別学力検査 <教科>	一般（前期）	○	○		○
小論文	一般（後期）				
	推薦Ⅰ		○		○
個人面接	推薦Ⅰ 私費外国人			○	
	推薦Ⅱ		○	○	○
出願理由書	推薦Ⅰ				
	推薦Ⅱ			○	
	私費外国人				
調査書*	推薦Ⅰ	○		○	
	推薦Ⅱ				
(日本留学試験)	私費外国人	○	○		

※一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）においては調査書は総合判定時の参考とする。

Ⅱ 募集人員

学部	学科・課程等	入学定員	募 集 人 員							備 考			
			一般入試		推薦入試			AO入試			私 外 費 留 学 生 入 試		
			前期日程	後期日程	I	II	被災者 特別選抜	I	II				
人文社会科学部	人間文化課程	125	60	20	※ 40				5	若干名	※推薦入試Ⅰ 募集人員内訳 (小論文選択 20) スポーツ選択 7 美術選択 9 書道選択 4)		
	地域政策課程	75	43	14	15				3	若干名			
	計	200	103	34	55				8	若干名			
教育学部	小学校教育課程	小学校教育コース	85	45	15	25					若干名	※数学サブコース及び理科サブコースの推薦入試Ⅰの入学者は、「小学校教育専修」に所属することになります。	
		中学校教育コース	国語サブコース		5								若干名
			社会サブコース		5								若干名
			技術サブコース		3								若干名
			家庭サブコース	33	3								若干名
			英語サブコース		5		3						若干名
			音楽サブコース		3								若干名
			美術サブコース		2		1						若干名
	保健体育サブコース		3							若干名			
	理教コース	数学サブコース	32	12		※ 5					若干名		
理科サブコース			10		※ 5					若干名			
特別支援教育コース	10	5	2	3						若干名			
計	160	101	17	42						若干名			
理工学部	化学・生命理工学科	化学コース	90	38	12	10		若干名		5	若干名	被災者特別選抜は、東日本大震災により被害を受け、将来被災地域の復興に熱意を有する高校生を対象に行う試験です。 AO入試Ⅰは地域創生特別プログラムの募集人員で、AO入試Ⅱは先端理工学特別プログラムの募集人員となります。	
		生命コース		17	5	3		若干名			若干名		
	物理・材料理工学科	数理・物理コース	80	22	4	4		若干名		5	若干名		
		マテリアルコース		29	9	7		若干名			若干名		
	システム創成工学科	電気電子通信コース	270	38	12	10		若干名		5	若干名		
		知能・メディア情報コース		35	12	8		若干名			若干名		
機械科学コース			50	15	15		若干名			若干名			
社会基盤・環境コース		38	10	12		若干名		5	若干名				
計	440	267	79	69		若干名		10	15	若干名			
農学部	植物生命科学科	40	30	5	5					若干名	共同獣医学科の修業年限は、6年です。		
	応用生物化学科	40	29	6	5					若干名			
	森林科学科	30	20	5	5					若干名			
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース	60	27	7	6						若干名	
		食産業システム学コース		11	3	6						若干名	
	動物科学科	30	22	3	5					若干名			
	共同獣医学科	30	23	4		3						若干名	
計	230	162	33	32	3					若干名			
合 計	1,030	633	163	198	3	若干名		18	15	若干名			

教育学部の入学定員は学校教育教員養成課程 160 名ですが、入学定員欄にはコース毎の募集人員計を表示しています。推薦入試及びアドミッション・オフィス入試（AO入試）の合格者が募集人員に満たない場合、その欠員補充は一般入試で行います。

Ⅲ 推薦入試 I

大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除する推薦入試 I を行います。

推薦入試 I に出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者としてします。

なお、選考における採点・評価基準は次のとおりです。

- ・ 小論文については、示した問題・課題等に対する理解力、解析力、考察力、論理的思考力、表現力等を検査します。
- ・ 実技検査については、当該分野を学修していく上で必要な実技能力を検査します。
- ・ 面接（口頭試問を含みます。）については、示した設問に対する論理的思考力、理解力、意欲、表現力、検討能力、もののとらえ方等を検査します。
- ・ 調査書については、高等学校等における学業成績、修学状況及び特別活動等を中心に評価します。

※ 大規模災害等、予期せぬ事態が発生した場合、選抜方法を変更することがあります。

1. 人文社会科学部

(1) 出願要件

課 程 等		出 願 要 件	推 薦 人 数
人 間 文 化 課 程	小 論 文 選 択	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成 31 年 3 月に卒業見込みの者又は通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 31 年 3 月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が 4.3 以上の者</p>	1 校 3 名以内
	ス ポ ー ツ 選 択 【注 1】	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成 31 年 3 月に卒業見込みの者（平成 30 年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による 12 年の学校教育を平成 31 年 3 月に修了見込みの者で、次の三つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が 4.0 以上の者 ② 競技者として、スポーツの技能に秀でた者 ③ スポーツの理論と指導に関する勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者</p>	1 校 2 名以内
	美 術 選 択 書 道 選 択 【注 2】	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成 31 年 3 月に卒業見込みの者又は通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 31 年 3 月に修了見込みの者で、①の条件（必須）を満たしたうえで、②又は③に該当し、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が 4.0 以上の者 ② 出身学校で美術・工芸・デザイン・書道等の科目を履修している者でその成績が特に優れている者 ③ 美術または書道の表現に秀でた者</p>	美術選択 1 校 2 名以内 書道選択 1 校 2 名以内
地 域 政 策 課 程		<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成 31 年 3 月に卒業見込みの者又は通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 31 年 3 月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>・ 調査書の学習成績の全体の評定平均値が 4.3 以上の者</p>	1 校 2 名以内

※ 推薦人数については、分校は、本校とは別に 1 校として取り扱います。

【注 1】 スポーツ選択で合格した者は、主専修プログラムとしてスポーツ科学専修プログラムを履修することになります。

【注 2】 美術選択・書道選択で合格した者は、主専修プログラムとして芸術文化専修プログラムを履修することになります。

(2) 選抜方法

課 程 等		選 抜 方 法 等
人 間 文 化 課 程	小論文選択	小論文, 面接, 出身学校長からの推薦書, 調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	スポーツ 選 択	小論文, 面接, 出身学校長からの推薦書, 調査書, 運動歴調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	美術選択 書道選択	実技検査, 面接, 出身学校長からの推薦書, 調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。 受験時に, 資料ファイル(これまでに制作した作品や芸術活動についてまとめた資料・様式任意)を持参してください。面接の際に, 資料ファイルについての説明を求めます。 なお, 資料ファイルには, 出身学校長の証明書を添付してください。 実技検査の詳細については, (3) 実技検査を確認してください。
地 域 政 策 課 程		小論文, 面接, 出身学校長からの推薦書, 調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

(3) 実技検査

人間文化課程の美術選択及び書道選択の実技検査の内容は次のとおりです。

受験時に以下の用具を持参してください。

区 分	検 査 内 容	持 参 す る 用 具
美 術 選 択	デッサン (1) 木炭 (2) 鉛筆 ※出願時に, (1) 又は (2) の いずれかを選択してください。	木炭用具一式又は鉛筆用具一式 ※木炭紙又は画用紙及びカルトンは 大学で用意します。
書 道 選 択	臨書 (1) 漢字 (楷書, 行書) (2) 仮名 (原寸)	書道用具一式 毛筆 (太字用・細字用), 墨 (固形又は液体), 硯, 文鎮 ※下敷, 解答用紙, 吸い取り紙は大学で 用意します。 字典, 教科書, 参考資料, 消しゴム, 持 参用紙は, 試験場では使用できません。

(4) 選抜日程

受験者は、人文社会科学部の受験案内板を確認の上、9時までに(5)の各試験場に集合してください。

(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	課 程 等		選 抜 区 分	時 間
平成30年11月28日(水)	人 間 文 化 課 程	小 論 文 選 択	小 論 文	9 : 30 ~ 11 : 30
			面 接	13 : 00 ~
		ス ポ ー ツ 選 択	小 論 文	9 : 30 ~ 11 : 30
			面 接	13 : 00 ~
	美 術 選 択 書 道 選 択	実 技 検 査	9 : 30 ~ 12 : 00	
		面 接	13 : 00 ~	
	地 域 政 策 課 程	小 論 文	9 : 30 ~ 11 : 30	
		面 接	13 : 00 ~	

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(5) 試験場

人文社会科学部の試験場は次のとおりです。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

課 程 等		試 験 場
人 間 文 化 課 程	小 論 文 選 択	学 生 セ ン タ ー A 棟
	ス ポ ー ツ 選 択	
	美 術 選 択	芸 術 棟
	書 道 選 択	総合教育研究棟(教育系)
地 域 政 策 課 程		学 生 セ ン タ ー A 棟

(6) 入学後の専修プログラムの選択について

人文社会科学部の学生は入学後、自ら学びたいと考える主専修プログラムおよび副専修プログラムを2年次末に選択します。

主専修プログラムは、所属課程の専修プログラムから選択し、副専修プログラムは、主専修プログラム以外の所属課程の専修プログラム、他課程の専修プログラム、課程横断型プログラムから選択することになります。

ただし、推薦入試において人間文化課程のスポーツ選択で合格した者は主専修プログラムとしてスポーツ科学専修プログラムを、美術・書道選択で合格した者は主専修プログラムとして芸術文化専修プログラムを、それぞれ履修することになります。

●人間文化課程専修プログラム

行動科学 スポーツ科学 現代文化 異文化間コミュニティ 歴史 芸術文化
英語圏文化 ヨーロッパ語圏文化 アジア圏文化

●地域政策課程専修プログラム

政策法務 企業法務 地域社会経済 地域社会連携 環境共生

●課程横断型プログラム

グローバル・地域人材育成

2. 教育学部

(1) 出願要件

課程・コース等		出 願 要 件	推 薦 人 数
学校 教育 教員 養成 課程	小学校教育コース	高等学校を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者	1校2名以内
	中学校教育コース 英語サブコース	高等学校を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者	1校1名
	中学校教育コース 美術サブコース	高等学校を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者	1校1名
	理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース	高等学校を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者 ② 入学後は小学校教育専修に所属することを確約できる者	それぞれのサブコースで 1校1名
	特別支援教育 コース	高等学校を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者	1校1名

※ 出願要件欄の「高等学校」には、中等教育学校の後期課程を含みます。

※ 推薦人数については、分校、定時制、通信制は、本校とは別に1校として取り扱います。

(2) 選抜方法

課程・コース等		選 抜 方 法 等
学校 教育 教員 養成 課程	小学校教育コース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	中学校教育コース 英語サブコース	小論文、面接（英語による口頭試問を含む）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	中学校教育コース 美術サブコース	実技検査、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。 受験時には、資料ファイル（これまでに制作した作品や芸術活動についてまとめた資料・様式任意）を持参してください。面接の際に、資料ファイルについての説明を求めます。 なお、資料ファイルには、出身学校長の証明書を添付してください。 実技検査の詳細については、(3)実技検査を確認してください。
	理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
	特別支援教育 コース	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

(3) 実技検査

中学校教育コース美術サブコースの実技検査の内容は次のとおりです。

受験時に以下の用具を持参してください。

コース等	検査内容	持参する用具
中学校教育コース 美術サブコース	デッサン（石膏像） （1）木炭 （2）鉛筆 ※出願時に、（1）又は（2）の いずれかを選択してください。	木炭用具一式又は鉛筆用具一式 ※木炭紙又は画用紙及びカルトンは 大学で用意します。

(4) 選抜日程

中学校教育コース美術サブコースの受験者は、8時30分までに教育学部に集合してください。

その他の受験者は、9時までに教育学部に集合してください。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年月日	課程・コース等	選抜区分	時間
平成30年11月28日(水)	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 中学校教育コース 英語サブコース 理数教育コース 数学サブコース 理科サブコース 特別支援教育コース	小論文	9:30 ~ 11:30
		面接	12:30 ~
	中学校教育コース 美術サブコース	実技検査	9:00 ~ 12:00
		面接	13:00 ~

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(5) 入学後のサブコース等の選択について

小学校教育コースの学生は、1年次後期からサブコースに所属し、各カリキュラムを履修することになります。サブコースは、国語、社会、技術、家庭、英語、音楽、美術、保健体育、教育学、心理学、特別支援教育の11分野です。(小学校教育コースから数学及び理科サブコースに所属することはできません。) サブコースへの所属は各自の志望を優先しますが、人数の調整をすることがあります。

理数教育コースの学生は、入学者選抜の段階で所属するサブコース(理科あるいは数学)を決定します。また、推薦入試による入学者は小学校教育専修(小学校教員養成を主とする専修)となりますが、一般入試による入学者は入学後一定期間を経て、学生の志望により小学校教育専修か中学校教育専修(中学校教員養成を主とする専修)を決定します。

3. 理工学部

(1) 出願要件

全 学 科 ・ コ ー ス 共 通 事 項	出 願 要 件
	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者

学科・コース		出 願 要 件	推 薦 人 数
化学・生命理工学科	化 学 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 化学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校3名以内
	生 命 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 生命科学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校3名以内
物理・材料理工学科	数 理 ・ 物 理 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 数理科学・物理科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の2科目	1校3名以内
	マ テ リ ア ル コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 物質科学・材料工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の2科目及び「物理、化学」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の2科目	1校3名以内

学科・コース		出 願 要 件	推 薦 人 数
システム 創成工学科	電 気 電 子 通 信 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 電気電子通信工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者	1校2名以内
	知 能 ・ メ デ ィ ア 情 報 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 知能・メディア情報工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から1科目以上を履修している者	1校2名以内
	機 械 科 学 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 機械科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目以上及び「化学基礎、理数化学」から1科目以上を履修している者	1校2名以内
	社 会 基 盤・ 環 境 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 社会基盤・環境工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校3名以内

※ 定時制を有する高等学校については、定時制枠として別枠で、1名の推薦を認めます。

※ 先端理工学特別プログラムでは、入学後、履修生を追加募集することがあります。

詳細については、<http://www.se.iwate-u.ac.jp/> をご確認ください。

(2) 選抜方法

面接（口頭試問を含みます。）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
口頭試問の対象となる科目及びその範囲は以下のとおりです。また、出題内容は基礎的な内容とします。

学科・コース		口頭試問の対象となる科目及びその範囲
化学・生命理工学科	化学コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：化学基礎 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	生命コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
物理・材料理工学科	数理・物理コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	マテリアルコース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
システム創成工学科	電気電子通信コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	知能・メディア情報コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	機械科学コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：物理基礎 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	社会基盤・環境コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。

(3) 選抜日程

受験者は、11時30分までに理工学部集合してください。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	学 科	選 抜 区 分	時 間
平成30年11月28日(水)	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科 システム創成工学科	面 接 (口頭試問を 含みます)	12:00 ~

※ 受付は10時30分から開始します。なお、10時30分から12時までは各学科の面接控室で昼食をとることが可能です。

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(4) 大学入試センター試験の受験について

大学入試センター試験は課しませんが、合格後の学習継続と本学入学後の学修に支障をきたさないために、大学入試センター試験を受験することを強く推奨します。

(5) 入学前教育について

理工学部では推薦入試合格者が高等学校から大学の教育内容に円滑に移行する事を目的として、推薦入試合格者全員を対象に入学前教育を実施します。具体的内容については推薦入試合格発表後に個別に通知します。

4. 農学部

(1) 出願要件

学 科 等	出 願 要 件	推 薦 人 数
植 物 生 命 学 科 応 用 生 物 化 学 科 森 林 学 科 食 料 生 産 環 境 学 科 (農村地域デザイン学コース) (食産業システム学コース) 食 料 生 産 環 境 学 科 [水産システム学コース] 動 物 科 学 科	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。）を卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ・調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.0以上の者	それぞれの学科 (食料生産環境学科を除く) 1校2名以内 食料生産環境学科農村地域デザイン学コース・食産業システム学コース 1校2名以内 食料生産環境学科水産システム学コース 1校2名以内

(2) 選抜方法

学 科 等	選 抜 方 法
植 物 生 命 学 科 応 用 生 物 化 学 科 森 林 学 科 食 料 生 産 環 境 学 科 (農村地域デザイン学コース) (食産業システム学コース) 食 料 生 産 環 境 学 科 [水産システム学コース] 動 物 科 学 科	小論文、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。

(3) 選抜日程

受験者は、9時までに農学部集合してください。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	学 科 等	選 抜 区 分	時 間
平成30年11月28日(水)	植 物 生 命 学 科 応 用 生 物 化 学 科 森 林 学 科 食 料 生 産 環 境 学 科 (農村地域デザイン学コース) (食産業システム学コース) 食 料 生 産 環 境 学 科 [水産システム学コース] 動 物 科 学 科	小 論 文	9:30 ~ 12:00
		面 接	13:00 ~

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(4) 入学後のコース選択について

食料生産環境学科（水産システム学コースを除く）の学生は2年次前期から、農村地域デザイン学コースと食産業システム学コースに分かれ、各コースのカリキュラムを履修することになります。

コースの選択は、原則として各自の志望により決定しますが、教育的配慮から人数の調整をすることがあります。

IV 推薦入試Ⅱ

本学において実施する個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課す推薦入試Ⅱを行います。

推薦入試Ⅱに出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者としてします。

なお、選考における採点・評価基準は次のとおりです。

- ・ 面接については、示した設問に対する論理的思考力、理解力、意欲、表現力、検討能力、もののとらえ方等を検査します。
- ・ 調査書については、高等学校等における学業成績、修学状況及び特別活動等を中心に評価します。

※ 大規模災害等、予期せぬ事態が発生した場合、選抜方法を変更することがあります。

1. 農学部

(1) 出願要件

学 科	出 願 要 件	推 薦 人 数
共 同 獣 医 学 科	<p>高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成31年3月に卒業見込みの者（平成30年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月に修了見込みの者で、次の条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 調査書の学習成績の全体の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>② 出身学校において、物理（「物理基礎、物理、理数物理」から1科目）、化学（「化学基礎、化学、理数化学」から1科目）及び生物（「生物基礎、生物、理数生物」から1科目）の科目のうち2科目以上を履修している者</p>	1 校 1 名

(2) 選抜方法

学 科	選 抜 方 法 等	
共 同 獣 医 学 科	<p>本学において実施する個別学力検査を免除し、大学入試センター試験の成績、面接、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。</p> <p>なお面接は、個人面接に加え、当日提示される課題に対して自らの考えを説明する課題個人面接を行います。</p>	
	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
	教 科	科目名等
	国 地歴 公民 数 理 外	<p>国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫政経 (数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、簿、情報から1) 物理、化学、生物から2 英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕</p>

※「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了見込みの者に限ります。

(3) 配点

学 科	大学入試センター試験									面接	調査書	小計	合計
	国語	地歴	公民	数学		理 科	外国語	小計					
				数学①	数学②								
共同獣医学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	150	50	200	1,100

備考 1 表中の () は選択教科・科目であることを表します。

2 大学入試センター試験について

① 選択教科・科目で、『「地理歴史」, 「公民」』から2科目受験した場合は, 第1解答科目の成績を利用します。

② 「数学」①, ②の区分は次のとおりです。

数学① (数学Ⅰ・数学A)

数学② (数学Ⅱ・数学B, 簿記・会計, 情報関係基礎)

③ 外国語のうち「英語」の配点については, 筆記試験 (200点満点), リスニングテスト (50点満点) の合計得点を200点満点に換算して利用します。

なお, 「英語」以外の科目を受験した者及びリスニングテストを免除された者については, 筆記試験 (200点満点) の成績をそのまま利用します。

3 受験を要する教科・科目の詳細については, 28ページ「(2) 選抜方法」を参照してください。

(4) 選抜日程

受験者は, 9時30分までに農学部に集合してください。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	選 抜 区 分	選 抜 区 分	時 間
平成31年1月25日(金)	共 同 獣 医 学 科	面 接	10:00 ~

※ 面接の終了時刻は, 受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

V 被災者特別選抜

東日本大震災により被害を受け、将来、被災地域の復興に熱意を有する高校生を対象に被災者特別選抜を行います。この選抜においては、大学入試センター試験及び本学において実施する個別学力検査を免除します。

被災者特別選抜に出願できる者は、合格した場合、入学を確約できる者とします。

東日本大震災により被害を受けた高校生とは、次のいずれかに該当する被害を受けた者であり、出身学校長による被災者認定が必要です。(38 ページ「4 出願書類等」の「⑪被災者認定書」参照)

- ① 本人または学資を主として負担している者の住居が全半壊、全半焼、流失した者
- ② 学資を主として負担している者が死亡または行方不明になっている者
- ③ 東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難勧告等を受け、避難している者
- ④ 学資を主として負担している者の収入が著しく減少した者
- ⑤ その他、上記の被害と同程度以上の被害を受けた者

1. 理工学部

(1) 出願要件

全学科・コース 共 通 事 項	出 願 要 件
	高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます。以下同じ。）を平成 31 年 3 月に卒業見込みの者（平成 30 年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）又は通常の課程による 12 年の学校教育を平成 31 年 3 月に修了見込みの者

学科・コース		出 願 要 件	推 薦 人 数
化学・ 生命理工学科	化学コース	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 化学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から 2 科目以上及び「物理、化学、生物」から 1 科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から 2 科目以上	1 校 5 名以内 (推薦入試 I を含む)
	生命コース	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 生命科学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から 2 科目以上及び「物理、化学、生物」から 1 科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から 2 科目以上	1 校 4 名以内 (推薦入試 I を含む)
物理・ 材料理工学科	数理・物理コース	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 数理科学・物理学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の 2 科目及び「物理、化学」から 1 科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の 2 科目	1 校 5 名以内 (推薦入試 I を含む)
	マテリアルコース	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦できる者 ① 物質科学・材料工学分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、いずれかの科目を履修している者 ア 「物理基礎、化学基礎」の 2 科目及び「物理、化学」から 1 科目以上 イ 「理数物理、理数化学」の 2 科目	1 校 5 名以内 (推薦入試 I を含む)

学科・コース		出 願 要 件	推 薦 人 数
シ ス テ ム 創 成 工 学 科	電 気 電 子 通 信 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学 校長が責任をもって推薦できる者 ① 電気電子通信工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修 に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目 以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から 1科目以上を履修している者	1校4名以内 (推薦入試Ⅰを含む)
	知 能 ・ メ デ ィ ア 情 報 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学 校長が責任をもって推薦できる者 ① 知能・メディア情報工学の分野の勉学に意欲があり、大学で の学修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目 以上及び「化学基礎、化学、理数化学、科学と人間生活」から 1科目以上を履修している者	1校4名以内 (推薦入試Ⅰを含む)
	機 械 科 学 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学 校長が責任をもって推薦できる者 ① 機械科学の分野の勉学に意欲があり、大学での学修に優れた 成果が期待できる者 ② 出身学校において、「物理基礎、物理、理数物理」から1科目 以上及び「化学基礎、理数化学」から1科目以上を履修してい る者	1校4名以内 (推薦入試Ⅰを含む)
	社 会 基 盤 ・ 環 境 コ ー ス	次の二つの条件を満たし、かつ人物、学力ともに優れ、出身学 校長が責任をもって推薦できる者 ① 社会基盤・環境工学の分野の勉学に意欲があり、大学での学 修に優れた成果が期待できる者 ② 出身学校において、次のア、イいずれかの科目を履修してい る者 ア 「物理基礎、化学基礎、生物基礎」から2科目以上及び「物 理、化学、生物」から1科目以上 イ 「理数物理、理数化学、理数生物」から2科目以上	1校5名以内 (推薦入試Ⅰを含む)

※ 定時制を有する高等学校については、定時制枠として別枠で、1名の推薦を認めます。

※ 被災者特別選抜の出願者については、推薦入試Ⅰ及び被災者特別選抜の両試験の受験者として取り扱います。

※ 先端理工学特別プログラムでは、入学後、履修生を追加募集することがあります。

詳細については、<http://www.se.iwate-u.ac.jp/> をご確認ください。

(2) 選抜方法

面接（口頭試問を含みます。）、出身学校長からの推薦書、調査書及び本人の出願理由書を総合して判定します。
口頭試問の対象となる科目及びその範囲は以下のとおりです。また、出題内容は基礎的な内容とします。

学科・コース		口頭試問の対象となる科目及びその範囲
化学・生命理工学科	化学コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：化学基礎 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	生命コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
物理・材料理工学科	数理・物理コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	マテリアルコース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
システム創成工学科	電気電子通信コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	知能・メディア情報コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	機械科学コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：物理基礎 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。
	社会基盤・環境コース	数 学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学 A，数学 B 理 科：「物理基礎」か「化学基礎」のどちらかを口頭試問開始時に選択 外国語：英語 ※ 数学 A の出題範囲は全範囲とします。数学 B の出題範囲は「数列」と「ベクトル」とします。

(3) 選抜日程

受験者は、11時30分までに理工学部集合してください。(XX 建物配置及び試験場案内図参照)

年 月 日	学 科	選 抜 区 分	時 間
平成30年11月28日(水)	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科 システム創成工学科	面 接 (口頭試問を 含みます)	12:00～

※ 受付は10時30分から開始します。なお、10時30分から12時までは各学科の面接控室で昼食をとることが可能です。

※ 面接の終了時刻は、受験者数によっては17時を過ぎることもあります。

(4) 大学入試センター試験の受験について

大学入試センター試験は課しませんが、合格後の学習継続と本学入学後の学修に支障をきたさないために、大学入試センター試験を受験することを強く推奨します。

(5) 入学前教育について

理工学部では推薦入試合格者が高等学校から大学の教育内容に円滑に移行する事を目的として、推薦入試合格者全員を対象に入学前教育を実施します。具体的内容については推薦入試合格発表後に個別に通知します。

Ⅵ 受験上の注意

- (1) 「平成31年度大学入試センター試験受験票」(推薦入試Ⅱ受験者のみ)及び「本学の受験票」は試験期間中必ず携帯し、係員の請求があった場合は、これを提示してください。
- (2) 試験場には駐車場はありませんので、公共の交通機関を利用してください。
- (3) 試験場の下見は以下のとおりとしますが、建物の中に入ることはできません。

区 分	年月日	時 間
推 薦 入 試 I	平成30年11月27日(火)	14～17時
推 薦 入 試 II	平成31年1月24日(木)	
被災者特別選抜	平成30年11月27日(火)	

- (4) 受験時には、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類の使用を認めませんので、必ず電源を切ってください。試験時間中に、これらをカバン等にしまわず身につけていたり手に持っていたりすると、不正行為となることがあります。
 - (5) 自然災害、悪天候等により、指示された時刻までに試験場に到着できない場合は、受験票に記載してある緊急時の問い合わせ先まで連絡してください。
 - (6) 試験開始時刻後30分以内の遅刻に限り、受験を認めますので、遅刻した場合は係員の指示に従ってください。ただし、面接以外の受験科目は試験時間の延長はしません。
 - (7) 試験場で不正行為を行った者や、監督者の指示に従わない者には退場を命じ、受験結果を全て無効とします。
 - (8) 昼食は各自で用意し、試験室又は受験者・付添者控室等で食事をしてください。
- ※ 不正行為については、「Ⅶ 不正行為」も確認してください。

Ⅶ 不正行為

- (1) 次のことをすると不正行為となります。
不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験は出来なくなります。また、受験した岩手大学入学試験のすべての成績を無効とします。

- ① 志願票・写真票・受験票・入学検定料納入確認票、答案へ故意に虚偽の記入をすること。(写真票に本人以外の写真を貼ることや、答案に本人以外の名前・受験番号を記入する等)
- ② カンニングをすること。(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること等)
- ③ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- ④ 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- ⑤ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ⑥ 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- ⑦ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ⑧ 「解答やめ。鉛筆を置いて問題冊子を閉じてください。」等の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

(2) 上記(1)以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示に従わず、不正行為と認定された場合の取り扱いは、(1)と同様です。

- ① 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類をカバン等にしまわず、身につけていたり手に持っていること。
- ② 試験時間中に、携帯電話や時計等の音(着信・アラーム等)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ③ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
- ④ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑤ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑥ その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

Ⅷ 入試過去問題活用宣言について

本学は、「入試過去問題活用宣言」に参加しており、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。

(1) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧は、次のURLで公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp>

(2) 入試過去問題は、そのまま使用する場合も一部改変して使用する場合があります。ただし、必ず使用するとは限りません。

(3) 過去問題を使用した場合は、入学者選抜試験終了後、出典等を公表します。

Ⅸ 障がい等を有する入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、障がいあるいは疾病等により受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、平成30年9月28日(金)までに「事前相談について」(所定様式)を提出してください。「事前相談について」(所定様式)は、本学ホームページ(<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/general/handicapped.html>)からダウンロード、もしくは次ページ掲載の様式をご利用ください。

なお、必要により、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行う場合がありますので、できるだけ早めに提出してください。

また、期限後に不慮の事故等により、受験上の特別な配慮が必要となった場合には、速やかに連絡してください。

提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

岩手大学長 殿

平成 年 月 日

氏 名
 (志願者との関係)
 住 所
 電話番号 — —

事前相談について

下記により事前に相談したいので、関係書類を添えて提出します。

記

1 志願者氏名等

ふりがな 氏 名	男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日生
現住所	〒 —	電話	—	—
出身学校名		電話	—	—

2 志望学部等名

学部・学科等	学部		学科 課程		コース
出願区分 (出願区分を○で囲む)	AO I	AO II	推薦 I	推薦 II	前期日程 後期日程

3 障がいの種類・程度

4 受験上特別な配慮を希望する事項・内容

5 修学上特別な配慮を希望する事項・内容

6 出身学校在学中にとられていた特別な配慮

7 日常生活の状況

8 添付書類

- (1) 健康診断書
- (2) その他

注1 出身学校関係者等が記入してください。

注2 6の「出身学校在学中にとられていた特別な配慮」については、詳細に記入してください。

注3 本用紙に書ききれない場合には、適宜別紙に記載しても構いません。

注4 健康診断書等の書類は、写しで構いませんので、必ず添付してください。

注5 ※欄には記入しないでください。

※ 大学記入欄

X 出願手続

1 出願方法

出願書類等を取りそろえ、**本学所定の出願書類等提出用封筒に入れて必ず「速達書留」**で郵送してください。持参による出願は認めません。

なお、**推薦する学校において一括して郵送する場合は**、名簿を添付し、1名ごとに所定の出願書類等提出用封筒に入れて、必ず「速達書留」とし、封筒の表に「**推薦入試出願書類等在中**」と朱書きしてください。

2 出願書類等提出先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

3 出願受付期間（期限までに必着するよう、郵便事情を十分考慮して早めに送付してください。）

区分	出願受付期間
推薦入試Ⅰ	平成30年11月1日（木）～11月7日（水）【必着】
推薦入試Ⅱ	平成30年12月17日（月）～12月19日（水）【必着】
被災者特別選抜	平成30年11月1日（木）～11月7日（水）【必着】

4 出願書類等

書類等	記入方法等
① 志願票	<ul style="list-style-type: none">所定の用紙に志願者本人が記入してください。志願票は、電算処理されますので、汚したり折り曲げたりしないでください。推薦入試Ⅰ（被災者特別選抜を含みます。以下同じ。）と推薦入試Ⅱの用紙があるので、注意してください。42ページ以降の記入要領を参照してください。
② 出願理由書	<ul style="list-style-type: none">所定の用紙に志願者本人が記入してください。42ページ以降の記入要領を参照してください。
③ 写真票・ 受験票・ 入学検定料 納入確認票	<ul style="list-style-type: none">所定の用紙に志願者本人が記入してください。推薦入試Ⅰと推薦入試Ⅱの用紙があるので、注意してください。42ページ以降の記入要領を参照してください。写真票には、写真（縦4cm×横3cm）を貼ってください。推薦入試Ⅱに志願する者は、所定の「平成31センター試験成績請求票（推薦国公立推薦入試用）」を写真票の指定の位置に貼ってください。出願受付期間までに大学入試センターから「センター試験成績請求票」が到着しない場合は、「センター試験成績請求票」以外の出願書類を出願受付期間に間に合うように提出してください。「センター試験成績請求票」は大学入試センターから届き次第、岩手大学入試課宛に「速達特定記録」で送付してください。検定料17,000円（別途振込手数料がかかります。）を同封している所定の「払込取扱票」を使用し、必ず<u>ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口</u>で払い込んでください。（ATMは利用しないでください。）払込後、受け取った「振替払込受付証明書（お客さま用）」を日附印欄の押印を確認の上、所定の欄に貼ってください。検定料は、出願書類受理後はいかなる理由があっても返還しません。 ただし、推薦入試Ⅱにおいて、出願書類受理後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者には、検定料のうちから本学が定める額を返還します。 注）災害救助法適用地域における検定料免除措置については、38ページの「XI 検定料免除」を確認してください。
④ ラベル票	<ul style="list-style-type: none">所定のラベル票用紙の「① 出願受付用」及び「② 合格者通知用」は必ず記入してください。42ページ以降の記入要領を参照してください。
⑤ 受験票送付用封筒	<ul style="list-style-type: none">所定の封筒に志願者本人のあて先を明記し、362円分の切手（速達料金）を貼ってください。
⑥ 推薦書	<ul style="list-style-type: none">所定の用紙に推薦学校長が記入し、厳封したものを提出してください。42ページ以降の記入要領を参照してください。

書類等	記入方法等
⑦調査書	<ul style="list-style-type: none"> 推薦学校長が作成し厳封したものを提出してください。 高等専門学校第3学年修了者（見込みを含みます。）は、所定の調査書に準じて作成したものを提出してください。
⑧実技選択票	<ul style="list-style-type: none"> 人文社会科学部人間文化課程美術選択志願者及び教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術サブコース志願者は、所定の実技選択票に志願者本人が必要事項を記入してください。
⑨運動歴調査書	<ul style="list-style-type: none"> 人文社会科学部人間文化課程スポーツ選択志願者は、所定の運動歴調査書（出身学校で作成したもの）を提出してください。
⑩証明書	<ul style="list-style-type: none"> 人文社会科学部人間文化課程美術選択、書道選択志願者及び教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術サブコース志願者は、推薦学校長が作成した所定の証明書を、試験当日、資料ファイルに添えて提示してください。
⑪被災者認定書	<ul style="list-style-type: none"> 被災者特別選抜（理工学部）に志願する者は、推薦学校長が作成した被災者認定書を提出してください。
⑫その他の書類	<ul style="list-style-type: none"> 検定料免除を申請する者は、検定料免除申請書及び必要な書類を添えて提出してください。

5 出願書類等提出上の注意

- 国公立大学の推薦入試への出願は、一つの大学・学部に限ります。したがって、本学の推薦入試へ出願する者は、他の国公立大学の推薦入試に出願することはできません。
- 受理した出願書類等の返還及び記載事項の変更は認めません。
- 出願書類等に次のような不備のあるものは受理しませんので、注意してください。
 - 記入漏れ、誤記入のあるもの
 - 検定料に不足のあるもの
 - 推薦入試Ⅱについては、写真票に所定の「平成31センター試験成績請求票（**推薦**国公立推薦入試用）」を貼っていないもの
 - その他、提出すべき書類等が添付されていないもの
- 出願書類の記入に当たっては、42ページ以降の記入要領等を参照し、^{かいしょ}楷書で正しく明確に記入してください。
- 出願書類等の提出後、現住所等の変更があった場合は、速やかに連絡してください。
- 出願書類等に虚偽の記載があった場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

6 受験票の送付

- 出願書類を受理した後、受験番号を記載した受験票を送付します。
- 受験票が、推薦入試Ⅰ及び被災者特別選抜については平成30年11月13日（火）、推薦入試Ⅱについては平成31年1月4日（金）を過ぎても到着しない場合は、岩手大学学務部入試課（☎019-621-6064）にお問い合わせください。

XI 検定料免除

岩手大学では、災害救助法適用の災害により被災した者が、経済的な理由により大学進学を断念することがないよう、検定料について免除措置を行います。申請する者は、出願手続の際に一緒に申請手続を行ってください。

なお、申請手続等の詳細については、岩手大学ホームページ（<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/index.html>）で確認してください。

※ホームページを確認できない場合は、岩手大学学務部入試課（☎019-621-6064）にお問い合わせください。

XII 合格者の発表

合格者には郵便により合格通知書を送付するとともに、合格者の受験番号を次により発表します。

なお、推薦学校長には、すべての受験者の選考結果通知書を送付します。

(氏名は、慣用の字体又はカタカナで表記されている場合があります。)

区 分	合格発表の日時	方 法
推 薦 入 試 I	平成 30 年 12 月 7 日(金) 13 時	本学ホームページによる発表 https://www.iwate-u.ac.jp/
推 薦 入 試 II	平成 31 年 2 月 8 日(金) 15 時	
被災者特別選抜	平成 30 年 12 月 7 日(金) 13 時	

注 1) 合否の問い合わせについては、一切応じません。

注 2) 推薦入試 I 及び被災者特別選抜の合格発表については、学科ごとに推薦入試 I 及び被災者特別選抜を区別せずに合わせて発表します。

注 3) 合格電報又は合格電話の受付を行っている者がいますが、これは岩手大学とは一切関係がありませんので注意してください。

XIII 入学手続等の概要

入学手続等の概要は、次のとおりとし、詳細については、合格者に送付する「入学手続のしおり」で指示します。

1 入学手続締切期日

区 分	入学手続締切期日
推 薦 入 試 I	平成 30 年 12 月 21 日(金)
推 薦 入 試 II	平成 31 年 2 月 19 日(火)
被災者特別選抜	平成 30 年 12 月 21 日(金)

※ 入学手続締切期日までに入学手続を完了しなかった者は、入学を辞退した者として取り扱います。

2 入学関係書類

- (1) 平成 31 年度大学入試センター試験受験票 (推薦入試 I は受験票の写し、推薦入試 II は受験票の原本)
- (2) 誓約書・保証書 (所定の用紙)
- (3) 入学手続確認書
- (4) 学生証用カラー写真 (縦 4 cm × 横 3 cm) 1 枚
- (5) 入学料納入確認票
- (6) その他所定の書類

3 大学納付金

- (1) 入学料 282,000 円 (予定額)
- (2) 授業料 年額 535,800 円 [前期分 267,900 円 後期分 267,900 円] (予定額)

注 1) 上記納付金は予定額であり、入学時及び在学中に納付金額の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

注 2) 在学中の授業料の納入方法については、「入学手続のしおり」でお知らせします。

注 3) 入学手続後の入学料については、いかなる理由があっても返還しません。

4 入学料及び授業料の免除等制度

- (1) 入学料の免除

入学前 1 年以内に、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納入が著しく困難となった場合は、本人の願い出 (必要書類提出) に基づき選考の上、その半額又は全額を免除することがあります。

- (2) 入学料の徴収猶予

経済的理由によって入学料の納入が納入期限までに困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前 1 年以

内に、本人の学資を主として負担している者が死亡した場合又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合には、本人の願い出（必要書類提出）に基づき選考の上、定められた期限まで徴収を猶予することがあります。

(3) 授業料の免除

経済的理由によって修学が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合には、本人の願い出（必要書類提出）に基づき選考の上、その全額、半額又は1/4を免除することがあります。

5 その他の経費（平成30年4月現在）

(1) 学生教育研究災害傷害保険（付帯賠償責任保険を含む）

学部4年間 4,080円

※ 農学部共同獣医学科のみ 学部6年間 5,890円

(2) 後援会、同窓会費等の諸会費（学部によって異なります。） 55,000円～80,000円

※ 上記の(1)及び(2)は、全員加入を原則としています。

XIV 合格者の留意事項

(1) 本学の推薦入試に合格した者は、本学及び他の国公立大学を受験しても、その大学の合格者とはなりません。

(2) 合格者に特別の事情があり、合格者を推薦した学校長が、平成31年2月19日（火）までに岩手大学長あてに「推薦入学辞退願」を提出し、その許可が得られた場合に限り、入学辞退を認めます。

入学辞退が許可された者は、本学及び他の国公立大学を受験することができます。

(3) 入学手続締切期日に入学手続を完了しないときは、合格者としての権利を消失するとともに、本学及び他の国公立大学を受験しても合格者とはなりません。

(4) 合格者は、入学又は入学辞退のいずれかの手続を行ってください。

XV 入試情報の提供

1 受験者に対する調査書等の開示

本学では、受験者本人（合格・不合格の選考結果を問わず、全受験者を対象とします。）の申請により、出身学校長から提出のあった調査書を次のとおり開示します。

ただし、推薦入試Ⅱ受験者についてのみ、平成31年度大学入試センター試験の成績、面接及び調査書の得点についても併せて開示します。

(1) 申請期間

平成31年5月1日（水）から平成31年6月28日（金）まで【必着】

(2) 申請方法

下記①～④の書類を取りそろえ、ア又はイのいずれかの方法により、受験者本人が申請してください。

書類に不備がある場合は、成績を開示できませんので注意してください。

① 本学の受験票（原本）

② 平成31年度大学入試センター試験受験票（推薦入試Ⅱ受験者のみ）（原本）

③ 入試情報開示申請書（所定の用紙）

④ 返信用封筒（長形3号。522円分の切手（書留料金）を貼り、本人の郵便番号、住所、氏名を明記してください。）

※ 受験票は開示内容とともに返送します。

※ 入試情報開示申請書は、岩手大学ホームページからダウンロードしてください。（平成31年4月中旬掲載予定）

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/disclosure/result.html>

ア 岩手大学学務部入試課窓口での申請

受付時間は月曜日から金曜日の10時から16時までです。（祝日は除きます。）

イ 郵送による申請

「入試情報開示請求」と朱書きした封筒に、①～④の書類を入れて、岩手大学学務部入試課まで「簡易書留」にて郵送してください。

(3) 申請先

岩手大学学務部入試課

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

(4) 開示内容

① 推薦入試Ⅰ受験者

- ・ 出身学校長から提出のあった調査書（「指導上参考となる諸事項」、「総合的な学習の時間の内容・評価」及び「備考」の欄を除きます。）

② 推薦入試Ⅱ受験者

- ・ 平成 31 年度大学入試センター試験の成績（本学が課した教科・科目に限ります。）、面接及び調査書の得点
- ・ 出身学校長から提出のあった調査書（「指導上参考となる諸事項」、「総合的な学習の時間の内容・評価」及び「備考」の欄を除きます。）

(5) 開示方法

申請書受理後 1 ヶ月以内に郵送します。

2 出願状況の情報提供

出願受付期間中の各日 17 時現在の各学部学科・課程等の出願状況を、集計が完了次第岩手大学ホームページ (<https://www.iwate-u.ac.jp/>) で公表します。

XVI 他の入試への出願

本学の推薦入試に合格しなかった者は、本学及び他の国立大学が実施する他の入学試験に出願することができます。（入学辞退を許可された者を含みます。）

ただし、本学の一般入試前期日程及び後期日程を受験しようとする者は、改めて出願しなければなりません。（大学入試センター試験を受験する必要があります。）出願方法等の詳細は、平成 30 年 11 月下旬に公表予定の「平成 31 年度岩手大学一般入試学生募集要項」で確認してください。

XVII 長期履修制度

職業を有しているなどの事情（注 1）によって、修業年限である 4 年を超えて、一定の期間（最長 6 年まで）にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを願い出た者には、審査の上許可することがあります。

この制度の適用学生の授業料総額は、修業年限（4 年）で卒業する学生が納める授業料総額と同額となります。

なお、この制度の申請方法等は、合格者に別途通知します。

注 1) 該当者：① 職業を有している者（1 日 8 時間週 3 日以上又は 1 日 4 時間週 4 日以上勤務者で 6 月以上の継続雇用者）

② 家事従事者又は育児にあっている者

③ 前各号に該当しないが本人の収入で生計を維持している者

④ その他、本学が適当と認める者

注 2) 長期履修学生のための特別なカリキュラムは、原則として用意しません。

注 3) 農学部共同獣医学科の学生は対象になりません。

詳細については、岩手大学学務部学務企画課（☎ 019 - 621 - 6077）まで問い合わせてください。

XVIII 個人情報の取り扱い

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「岩手大学個人情報管理規則」に基づいて取り扱います。

1. 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。

2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。

3. 上記 1 及び 2 の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。

ついては、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供します。

4. 国立大学一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入試センター試験の受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国立大学に送付します。

5. 出願に当たって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用します。

XIX 出願書類等の記入要領及び志願票記入例

志願票、出願理由書、写真票、受験票及び実技選択票（人文社会科学部人間文化課程美術選択志願者及び教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術サブコース志願者）は、必ず志願者本人が記入してください。

出願書類等は、以下の記入要領等をよく読んで、**志願票はHBのシャープペンシル（0.5mm しん）**で、**志願票以外の用紙は黒のボールペン**で楷書で明確に、欄からはみ出さないように丁寧に記入してください。

ただし、※欄には記入しないでください。

誤って記入した場合は、修正液等は絶対に使用せず、以下の方法で修正してください。

- ① 志願票はプラスチック消しゴムで丁寧に消してから書き直してください。
- ② 志願票以外の用紙については、誤って記入した部分を二重線で抹消し、その上部余白に正しいものを記入してください。

1 志願票（推薦入試Ⅰ）記入要領

◎ 志願票は、HBのシャープペンシル（0.5mm しん）を使用し、濃く、丁寧に枠をはみ出さないように「3 志願票の正しい書き方例」（以下正しい書き方例）（47 ページ）を参照しながら記入してください。記入を誤った場合は、プラスチック消しゴムできれいに消してから正しく書き直してください。

① 志望学部・学科等

志望する学部名、学科・課程（コース）名を記入してください。

なお、下記に該当する場合は、次の項目についても記入してください。

対象者	項目	備考
人文社会科学部 人間文化課程志願者	選択 〔小論文、スポーツ、美術、書道の いずれか〕	人文社会科学部地域政策課程志願者は記入不要。
教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コースもしくは 理数教育コース志願者	サブコース 〔中学校教育コースの場合 英語サブコースもしくは美術サブコース 理数教育コースの場合 数学サブコースもしくは理科サブコース〕	教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース及び、特別支援教育コース志願者は記入不要。
理工学部志願者のうち、 被災者特別選抜志願者	被災者特別選抜にチェック	

② 学部・学科等コード

志望する学部・学科等のコードは、学部・学科等コード表（48 ページ）の該当するコードを正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。

③ 氏名

氏名（略字等はいわないでください。）を漢字とカタカナで記入してください。姓と名の間を1マスあけて、丁寧に記入してください。

なお、氏名の漢字は、電算処理のため、原則としてJIS第1水準及び第2水準の漢字で記入してください。本学では学籍管理上、コンピュータで表記できない（上記JIS規格以外）漢字については、類似する漢字に置き換え、もしくはひらがな表記にて登録します。

（例）「吉岡」→「吉岡」

④ 性別

該当する数字を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。

⑤ 生年月日

生年月日を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。数字が1桁の場合は、右欄に記入し、左欄には「0」（ゼロ）を記入してください。

⑥ 学校名

推薦する学校名を記入し、該当する文字を○で囲んでください。ふりがなは、ひらがなで記入してください。

⑦ 高等学校コード

岩手大学ホームページ（<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/info.html>）に掲載している「高等学校等コード表」を確認の上、正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら□の中に該当するコードを記入してください。

⑧ **学校所在地**

推薦する学校の住所・電話番号を記入してください。

⑨ **高等学校等の課程・学科**

該当する区分の数字を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら□の中に記入してください。学科が7（1～6以外の学科）の場合は、当該学科名を記入してください。

⑩ **志願者の略歴**

高等学校等名，入学及び卒業（見込）年月を記入してください。

高等専門学校3年次（修了見込者）は、「1」を記入してください。

□の中に記入する数字については，正しい書き方例（47 ページ）を参照してください。

⑪ **連絡先**

志願者及び保護者の住所・電話番号等を記入してください。

出願後，連絡先に変更が生じた場合は，すみやかに岩手大学学務部入試課に届け出てください。

電話番号は，本人と連絡が取れる番号を記入してください。

平成 31 年度岩手大学推薦入試 I 志願票

※

HB のシャープペンシル (0.5mm しん) で記入してください。

※大学記入欄	88	88	8888		
① 志望学部・ 学科等	農	学 部	食料生産環境	(学 科 課 程)	
	農村・食産業	コ ー ス	選択 (人文社会科学部志願者のみ) サブコース (教育学部志願者のみ)		
<input type="checkbox"/> 被災者特別選抜 (理工学部志願者のみ)					
② 学部・学科等 コード	MD	募集要項 48 ページを確認の上, 記入してください。			
③ 氏 名	*姓と名の間を1マスあけ, 丁寧に記入してください。				
	カナ	ガ	ン	ダ	イ
		タ	ロ	ウ	
	漢 字	岩	大	太	郎
④ 性 別	1 男 2 女	1	⑤ 生年月日	平成	12 年 06 月 01 日
⑥ 学 校 名	ふりがな	もりおかだいなな		⑦	
	国 立 公 立 私 立	盛岡第七	高等学校 中等教育学校 高等専門学校	高等学校 コード	98765 C
⑧ 学校所在地	(〒020-8550) 岩 手 都・道・府・県 盛岡市上田七丁目18番8号				
	電話番号 (019)-(621)-(6885)				
⑨ 高等学校等の 課程・学科	1 全日制 2 定時制 3 通信制 4 その他				1
	1 普通科 2 理数科 3 農業科 4 工業科 5 商業科 6 総合学科 7 1~6以外の学科				1
	7の場合の学科名				
⑩ 志願者の略歴	平成	28 年	4 月	盛岡第七	高等学校 中等教育学校 高等専門学校
	平成	31 年	3 月	盛岡第七	高等学校 中等教育学校 高等専門学校
					1 卒業見込 2 卒業
⑪ 連 絡 先	志 願 者 住 所 等				
	ふりがな	いわて	けん	もりおかしかいうんどおり	
		(〒020-8550)			
		岩 手	都・道・府・県	盛岡市開運通1-2-3	
		電 話 番 号 (019)-(621)-(6064)			
		携 帯 電 話 番 号 (090)-(△△△△)-(□□□□)			
保 護 者 住 所 等	保 護 者 住 所 等				
	ふりがな				
		(〒 -)			
		都・道・府・県 同 上			
		電 話 番 号 (019)-(621)-(6064)			
	携 帯 電 話 番 号 (090)-(xxxx)-(□□□□)				
保 護 者 氏 名	岩大 銀河		志 願 者 と の 続 柄	父	

2 志願票（推薦入試Ⅱ）記入要領

◎ 志願票は、HBのシャープペンシル（0.5mmしん）を使用し、濃く、丁寧に枠をはみ出さないように「3 志願票の正しい書き方例」（以下正しい書き方例）（47 ページ）を参照しながら記入してください。記入を誤った場合は、プラスチック消しゴムできれいに消してから正しく書き直してください。

① 氏 名

氏名（略字等は用いないでください。）を記入してください。ふりがなは、ひらがなで記入してください。（以下同じ。）

② 生年月日

該当する年号を○で囲み、生年月日を記入してください。

③ 性 別

該当する数字を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら記入してください。

④ 大学入試センター試験コード

この欄は、大学入試センターで発行する受験票に記載してある試験場コード及び受験番号（英数字）を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら記入してください。

また、発行回数の欄には、「1」を記入してください。ただし、再発行を受けた者は、「2」を記入してください。

なお、「平成31 センター試験成績請求票（**推薦**国公立推薦入試用）」は、写真票の指定する位置に、はがれないように正しく貼ってください。

⑤ 出願資格等

◆ 高等学校等名

推薦する学校名を記入し、該当する文字を○で囲んでください。

◆ 学校所在地都道府県名

「高等学校等名」の欄に記入した高等学校等の所在する都道府県名を記入してください。

◆ 資格

高等学校等を卒業又は卒業見込みの年月を記入してください。

該当する数字（1～4）を○で囲んでください。

⑥ 連絡先

◆ 合格通知受信場所は、志願者が合格通知書を受け取る場所とし、郵便番号・住所・電話番号を記入してください。

◆ 電話番号は、本人と連絡が取れる番号を記入してください。（携帯電話も可。）

◆ 保護者の欄も正確に記入してください。

◆ 出願後、記載内容に変更が生じた場合は、すみやかに岩手大学学務部入試課に届け出てください。

⑦ 志望学部・学科（課程）等と志望順位

この欄は、印字済みですので、記入の必要はありません。

⑧ 大学入試センター試験の受験科目

この欄には、大学入試センター試験で受験する教科・科目のすべてに『|』を正しい書き方例（47 ページ）を参照しながら記入してください。〔本学を志願する者は、本学の指定する教科・科目を受験していなければなりません。〕（28 ページの「(2) 選抜方法」を参照）

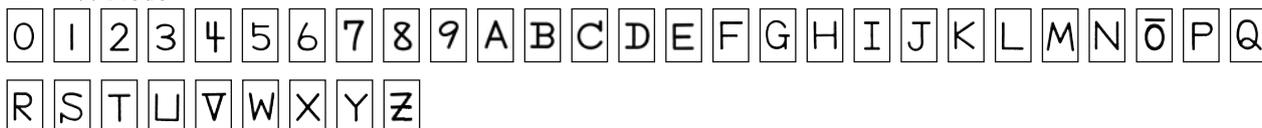
平成 31 年度岩手大学推薦入試Ⅱ志願票

HBのシャープペンシル(0.5mmしん)で記入してください。

※ 岩手大学 受験番号		※ 大 学 記入欄		出願 区分	8			
①ふりがな 氏 名	がんだい 岩大	はなこ 花子	② 生年 月日	昭和 (平成) 12年6月1日	③ 性別	1男 2女	2	
④ 大学入試 センター試験 コード	試験場コード 111301	受験番号 0123A	発行回数 1	※大学入試センター試験のコード等は、大学入試センター試験の受験票で確認の上、記入してください。				
⑤ 出願資格等	ふりがな 高等学校名	国立 (公立) 私立	もり おか だい なな 盛岡第七		高等学校 学 校	学校所在地 都道府県名	岩手 都 道 府 県	
	資 格	平成 31 年 3 月		① 卒業見込	2 卒 業	3 修了見込	4 修 了	
⑥ 連絡先	合受 格信 通場 知所	住所	いわて けん もりおかし かいうんどおり 〒 020 - 8550 岩手 都 道 府 県 盛岡市開運通1-2-3					
		電話番号	(019) - (621) - (6064) (方)					
		携帯電話 番 号	(090) - (◆◆◆◆) - (□□□□)					
	保 護 者	氏 名	岩大 銀河 (続柄 父) 電話番号 (019) - (621) - (6064) 携帯電話番号 (080) - (××××) - (□□□□)					
		住 所	〒 - 都 道 府 県 同 上					
⑦ 志望学部・ 学科(課程) 等と志望順位	志 望 学 部 名	志望学部コード	志 望 学 科 名	第1志望コード				
	農 学部	M	共 同 獣 医 学 科	G				
				⊗				
⑧ 大学入試 センター 試験の 受験科目	国 語	国語 B	数 学 ①	数学Ⅰ	数学Ⅰ・A			
	地 理 歴 史 ・ 公 民	第1 解答 科目	数 学 ②	数学Ⅱ	数学Ⅱ・B			
		第2 解答 科目	理 科 ① ※	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	
	外 国 語	英語※	理 科 ②	第1 解答 科目	物理	化学	生物	地学
		ドイツ語		第2 解答 科目	物理	化学	生物	地学
		フランス語						
		中国語						
		韓国語						
		※リスニングテストを含む						
※理科①を受験した場合、出願要件を満たせなくなります。受験予定の科目をよく確認してください。								

3 志願票の正しい書き方例

正しい書き方例



- (1) 志願票は、次の要領で記入してください。
 - ・ ※印の欄は記入しないでください。
 - ・ 志願票の□の部分には、上記の「正しい書き方例」にならって丁寧に英数字を記入してください。
 - ・ 漢字は正しく楷書^{かいしよ}で、記入してください。
- (2) 志願票は、必ず、**HBのシャープペンシル(0.5mm しん)**で濃く丁寧に記入してください。
- (3) 志願票に記入する文字は、「正しい書き方例」によります。
これ以外の書き方では「光学式文字読取装置(OCR装置)」で読みとれませんので注意してください。
- (4) 誤って記入した場合は、プラスチック消しゴムで丁寧に消してから書き直してください。
- (5) 志願票は、絶対に折り曲げたり汚したりしないでください。
- (6) **志願票の記入事項と記号(英数字)の記入内容を必ず一致させてください。**異なっている場合は、記号(英数字)を正しいものとして処理しますので注意してください。

4 出願理由書記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

- (1) 提出日、志望学部・学科等名、出身学校名、志願者氏名を記入してください。
- (2) 入学を希望する理由を志願者本人が記入してください。
- (3) 他人の助力によらず志願者本人が思考して作成してください。

5 写真票・受験票・入学検定料納入確認票記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

- 推薦入試Ⅰと推薦入試Ⅱの用紙があるので、注意してください。
太線枠内に、志願者氏名(ふりがなは、ひらがなで記入してください。)、性別(どちらかに○)、志望の学部名を記入してください。
所定の位置に写真(縦4cm×横3cm)を貼ってください。
推薦入試Ⅱの志願者は、写真票の所定の位置に「平成31センター試験成績請求票(推薦 国公立推薦入試用)」を貼ってください。
振替払込受付証明書(お客さま用)を日附印欄の押印を確認の上、所定の欄に貼ってください。

6 ラベル票記入要領(黒のボールペンで記入すること。)

- ① 出願受付用
学部・学科等コード、氏名(ふりがなは、ひらがなで記入)、性別(どちらかに○)、出身学校の所在する都道府県名、学校名、卒業年(卒業見込みの者は、卒業見込みの年「31」)を記入してください。
なお、学部・学科等コードの欄については48ページの学部・学科等コードを確認の上、記入してください。
- ② 合格者通知用
合格通知書を受け取る場所とし、郵便番号、住所、志願者氏名を記入してください。

7 推薦書記入要領

推薦学校長が記入してください。
「クラスでの成績順位」、「学年全体での成績順位」は、3年間の成績順位を記入してください。(コース等に分かれている場合は、コース等内順位及び()内にコース等名を記入してください。)ただし、卒業見込みの者の第3学年については、出願時の最新の順位を記入してください。

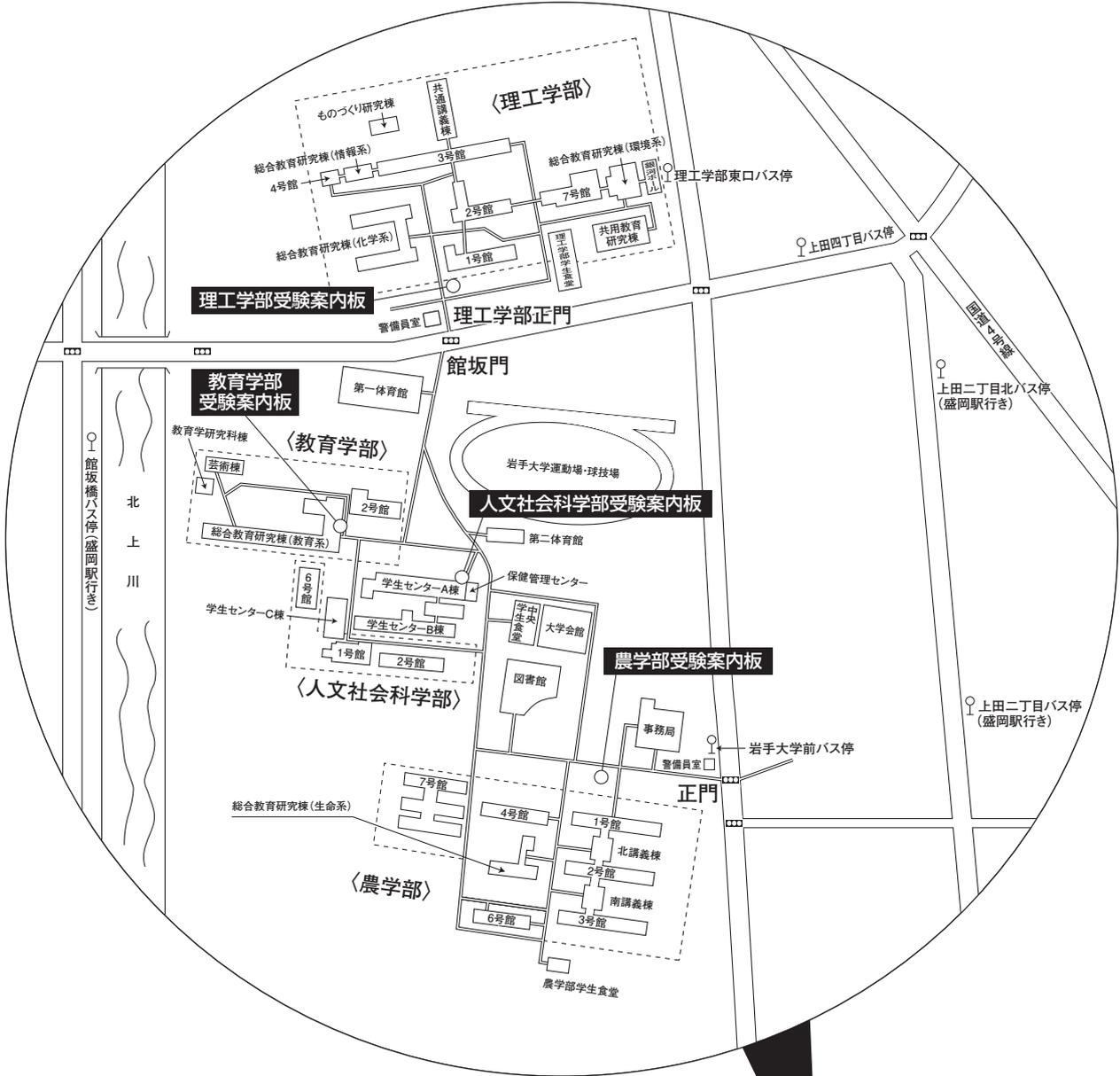
成績順位を算出していない場合は、その理由を所定の欄に記入し、科又はコース等名のみを()内に記入してください。
なお、推薦書は自筆による作成でなくても構いません。その場合は、岩手大学ホームページから様式をダウンロードして作成してください。

<https://www.iwate-u.ac.jp/admission/undergraduate/info.html>

8 学部・学科等コード

学部	学科・課程等		コード	
人文社会科学部	人間文化課程（小論文選択）		JA	
	人間文化課程（スポーツ選択）		JB	
	人間文化課程（美術選択）		JC	
	人間文化課程（書道選択）		JD	
	地域政策課程		JE	
教育学部	学校教育課程 学教員養成 課程	小学校教育コース	KA	
		中学校教育コース	英語サブコース	KF
			美術サブコース	KH
		理数教育コース	数学サブコース	KK
			理科サブコース	KL
特別支援教育コース	KM			
理工学部	化学・生命理工学科	化学コース	LA	
		生命コース	LB	
	物理・材料理工学科	数理・物理コース	LC	
		マテリアルコース	LD	
	システム創成工学科	電気電子通信コース	LE	
		知能・メディア情報コース	LF	
		機械科学コース	LG	
	社会基盤・環境コース	LH		
農学部	植物生命科学科		MA	
	応用生物化学科		MB	
	森林科学科		MC	
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース	MD	
		水産システム学コース	ME	
	動物科学科		MF	
	共同獣医学科		MG	

XX 建物配置及び試験場案内図



学部	盛岡駅東口(バスターミナル11番のりば)からの交通機関
人文社会科学部 教育学部 農学部	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県交通バスの駅上田線「松園バスターミナル行き」に乗りし「岩手大学前」で下車 岩手県交通バスの駅桜台団地線「桜台団地行き」に乗りし「岩手大学前」で下車
理工学部	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県交通バスの駅上田線「松園バスターミナル行き」に乗りし「上田四丁目」で下車 岩手県交通バスの駅桜台団地線「桜台団地行き」に乗りし「理工学部東口」で下車

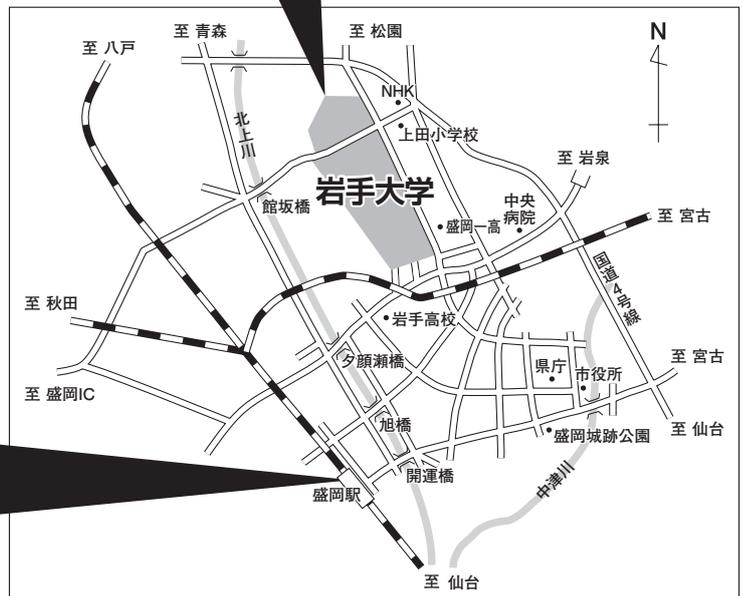
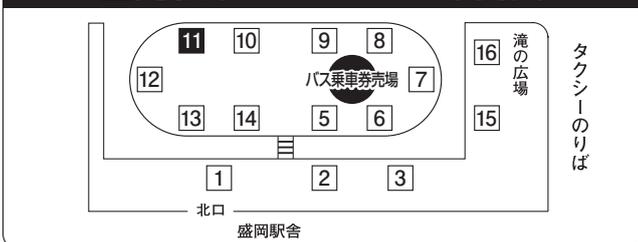
※本町・山岸・洞清水経由のバスには乗車しないでください。

注1) 盛岡駅から約2km、徒歩約25分です。

注2) タクシー利用の場合盛岡駅「タクシーのりば」から約10分、料金は1,000円程度です。

注3) 盛岡駅行き(帰り)のバス停については、上記の案内図を参照してください。

盛岡駅東口バスのりば案内図



岩手大学への各種問い合わせについては下記により行ってください。

問い合わせ時間等 月曜日から金曜日 9時00分から17時00分まで
※ただし、祝日、全学休業日(12/28～1/3)は除きます。

★入学試験に関すること

入学試験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。

岩手大学学務部入試課 ☎019-621-6064

★奨学金（日本学生支援機構等）に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6062

★入学料徴収猶予及び入学料・授業料免除に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6506

☎019-621-6882

★学生寮に関すること

岩手大学学務部学生支援課 ☎019-621-6749

★入学料及び授業料納入に関すること

岩手大学財務部経理課 ☎019-621-6031

岩手大学ホームページアドレス <https://www.iwate-u.ac.jp/>